

ひがた

ようこそ、えどがわの干潟へ

私たちが暮らす江戸川区の海には“干潟”と呼ばれる広大な湿地があります。荒川や旧江戸川が注ぎ込むえどがわの干潟には、これまで確認されただけでも140種類もの生きものたちが生息しています。

干潟で育ったスズキやウナギなどの“江戸前”は長年、江戸っ子たちの食卓を彩ってきました。また干潟は釣りや潮干狩りなどのいこいの場でもあり、子どもたちが豊かな自然環境を体験する学びの場としての役割も果たしています。

東京湾の埋め立てにより多くの干潟が消えていく中で、いまだに多くの生きものが息づくえどがわの干潟は、都市と自然が調和した世界に誇るべき環境です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、この干潟を保護していくための活動も始まっています。

本展示では、えどがわの干潟に暮らす貴重な生きものたちを紹介していきます。



江戸川区の干潟には、 東京湾本来の姿が残っています。

私が葛西の海を初めて訪れたのは1970年代でした。

まだ葛西沖が埋め立てられる前で海岸沿いにはずっとヨシの原っぱが広がっており、沖に出るとさらに砂の干潟が続いていました。このような東京湾らしい海岸を未来に残したいという声が形となり、いまの東なぎさや西なぎさが完成しました。

干潟で暮らしていた生きものたちはこうして生き延びることができ、私たちは今、それを身近で観察することができます。江戸川区の海辺には数少ない「東京湾本来の姿」が残されているのです。

干潟は夏になると水がぬるみ、やわらかい砂の上を歩いたり砂に手を触れるととても気持ちがいいものです。目をこらして浅瀬を見るとまん丸いマメコブシガニが歩いています。貝を割って置いておくとそれを食べようとアラムシロたちが続々と群がってきます。

この夏休みは、干潟に出かけて水辺の生きものたちと出会い、その生態を観察し、不思議な世界を楽しんでみてください。



企画展示監修
かんしゅう
あ る た としお
風呂田 利夫先生
ふうろ とうしお
東邦大学 名誉教授
理学博士
専門：海洋生物生態学



干潟の生きものの実態は 誰が調べているの？

「えどがわエコセンター」が
毎年水辺の調査を行っているよ。



毎年の「水辺環境調査」で 生きものの分布を知る

葛西臨海公園東なぎさ、江戸川・荒川・新中
川流域の干潟などで生きものの種類や大きさな
どを毎年調べるのが「水辺環境調査」です。

2004(平成16)年からNPO法人「えどがわ
エコセンター」が実施しており、これまでの調査
で約140種類の干潟の底生生物^{ていせいせいぶつ}と魚類を確認
しています。この中にはトビハゼやヤマトシジミ
などの準絶滅危惧種も含まれています。

※海や川などの底の泥や砂に生息する生きもののこと。



魚類・底生生物の調査

車のタイヤも発見!?「東なぎさクリーン作戦」

通常は立ち入り禁止の葛西臨海公園東なぎさ
に上陸して、打ち上げられたごみを収集するなど
環境保全活動を体験できるのが「東なぎさクリー
ン作戦」です。ふだんは出会えない野鳥や底生生
物が観察できる貴重な機会にもなっています。

えどがわエコセンターでは、他にも荒川などの
河川敷でカニや小魚と触れ合える自然体験や葛
西臨海公園・鳥類園での野鳥観察会など、青空の
下で自然の大切さを学ぶ機会を提供しています。



東なぎさクリーン作戦

水とみどりの江戸川区を 世界に発信



ラムサール条約湿地の登録が実現すれば都内初！

江戸川区では、シンポジウム開催の後援など、葛西海浜公園・葛西三枚洲のラムサール条約湿地の登録に向けた取組みの支援を行っています。登録が実現すれば都内初となります。首都東京で貴重な自然を持つ江戸川区を世界にアピールする絶好の機会になります。

ラムサール条約とは？

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、国際的に重要な湿地を保全し、その恵みを賢明に利用（ワイズユース）することを目的としています。1971年にイランのラムサールという町でこの条約が結ばれたのが始まりで、環境に関する国際的な条約としてはもっとも歴史があります。

■ラムサール条約締結国





干潟を守るため江戸川区では どんなことをしているの？

「江戸川区みどりの基本計画」に基づいて
さまざまな施策に取り組んでいるよ。



『水・緑、ともに生きる豊かな暮らし』

これは、豊かな水辺とふれあい、身近な緑を育てる喜びをともに感じながら、自然と共生し、区民が毎日楽しく生活する姿を表現した江戸川区のみどりの将来像です。これを実現するため、2013(平成25)年、「江戸川区みどりの基本計画」をまとめました。この計画の中で「生物多様性の確保」も大切な視点として位置付けています。

多くの生物を生み出す干潟は、皆さんの豊かな暮らしに不可欠な存在です。

みどりを守る。みどりを育む。 みどりを創る。

計画の基本方針は「みどりを守る」「みどりを育む」「みどりを創る」の3つ。

区民、事業者、区などがいっしょになって干潟や水辺の清掃などの活動を行う「守る」取組み、自然観察会や学校での環境学習の充実など、干潟をはじめとした水辺の自然、生態系の大切さについて学んでいく「育む」取組み、自然環境を大切にしたい水辺づくりなどの「創る」取組みについて、さまざまな施策を進めています。



- ① 人間活動が生物多様性に与えるマイナスの影響
- ② 生物多様性の劣化がもたらす自然の恵みの減少
- ③ 自然の恵みの減少が人間活動にもたらすマイナスの影響

■自然の恵みと人間活動の関係イメージ
環境省の自然観(東京都)より



荒川クリーンエイド



東なぎさでの自然観察会



漁業にとって干潟の役割は？



干潟は、生きものの子どもを外敵から守り、
大人になるまで育ててくれる場所だよ。

卵からかえった貝やカニ、エビは、海をたどって干潟にたどり着き成長します。^{****}遠浅な干潟は、大きな魚など外敵に襲われにくく、また、プランクトンなどエサが豊富なため、マハゼやスズキなど、干潟で子ども時代を過ごす魚たちも多く見られます。私たちの食卓に東京湾でとれた立派な魚や貝が並ぶのも、干潟が生きものを守り、育ててくれるおかげでもあるのです。

東なぎさでみつかった貝や魚、エビの子ども

スズキ



^{****}
『平成29年度 東京都内湾水生生物調査 2月種魚調査 通報』(東京環境局)より

コビナガ
スジエビ



ほかに、アユ、マハゼ、ボラ、
エドハゼ、エビジャコなどの
子どもがみついているん
だよ。

シオフキ
ガイ



『平成28年度 東京都内湾水生生物調査 12月種魚調査 通報』(東京環境局)より

アジシロ
ハゼ





葛西の海でも海水浴ができるの？

2013年から時間や場所を限定して安全性を確かめながら海水浴体験イベントが続けられています。



どこで泳げるの？

葛西海浜公園の西なぎさに遊泳ゾーンがあります。遊泳ゾーンはロープで区切られていて、ロープの中で泳ぐことができます。

監視員(ライフセーバー)や看護師もいるので安心です。



いつでも泳げるの？

西なぎさで泳げるのは海水浴体験イベントの日だけです。

昨年は、7月中～8月に海水浴体験が行われました。

※今年のスケジュールは、東京都公園協会Webサイト「公園へ行こう」(<http://www.tokyo-park.or.jp/>)で確認しましょう。



2016年の海水浴のようす

写真提供/東京都港湾局



注意！

- 足場の悪いところがあるので、はだしは危険です。 ●急に水深が深くなるところもあるので、十分に注意してください。
- 小学生以下の方は保護者といっしょに利用してください。
- 水着、浮き輪、ビーチサンダルなどは自分で用意してください。
- 海水浴は無料ですが、更衣室・シャワー、コインロッカーなどの利用は有料です。





干潟の生きものについて研究するには？

子ども未来館へGO!



「江戸川区子ども未来館」は子どもたちがいろんなテーマについて実際に体験しながら学べる施設です。「子どもアカデミー」では、入門から専門的に学べるものまで様々なプログラムを用意しています。

※申し込みは当日受付と事前申し込みの2種類があります。



子ども未来館 主任専門員
高木 嘉雄さん

子ども未来館は分野を問わず「実物」に触れることを合言葉としています。特に生きものの世界は、触ってみなければそのいのちを実感できません。ふだん気づかない、本物のワンダー（おどろき）を体験してみませんか？



夏休み応援プロジェクト



親子で干潟の生きもの観察会

干潟生物研究に詳しい風呂田利夫先生を講師に迎えて実際の生きものを採ったり、見つけた生きものの珍しさを競い合う「お宝鑑定」をしたりします。

日時：7月23日（日） 9:00～正午

定員：25組

対象：小学1～6年生と保護者

申し込み締め切り：6月27日必着（郵送）

※この他にもたくさんのプログラムがあります。
詳しくは館発行のチラシ等をご覧ください。



自由研究相談室

夏休みの自由研究のテーマやまとめ方などに困ったら何でも相談できます。

日時：7月17日（月・祝） 10:00～正午

定員：20名

対象：小学3～6年生

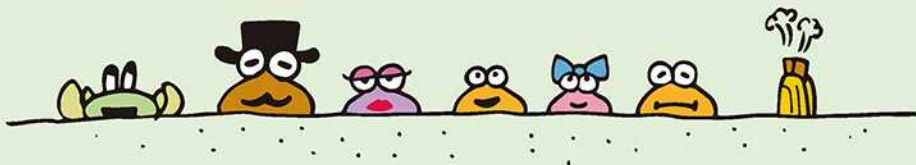
申し込み締め切り：7月7日必着（郵送）

※自由研究の仕上げまで、中継報告などのために上記日程以外にも、複数回ご来館いただく予定です（日時はお電話でご調整します）。

東京湾の干潟の広さランキング

	順位	面積(ha)	干潟タイプ	よく見られる生きもの
1	盤洲干潟	1400ha	前浜干潟	オサガニ、コメツキガニ、アシハラガニ、ニホンスナモグリ、アサリ、バカガイ
2	富津干潟	145.6ha	前浜干潟	アサリ、シオフキ、バカガイ、ユビナガホンヤドカリ、スゴカイイソメ、オニアサリ
3	養老川河口干潟	50ha	河口干潟	スゴカイイソメ、コメツキガニ、イワムシ、カワゴカイ類、アサリ、シオフキ
4	谷津干潟	42ha	前浜干潟	ホンビノスガイ、ヤマトオサガニ、ホソウミナ、ゴカイ類
5	江戸川放水路	40ha	人工水路	クロベンケイガニ、アシハラガニ、トビハゼ、ヤマトオサガニ、アナジャコ、ヤマトカワゴカイ
6	新浜湖干潟	30ha	人工潟湖	トビハゼ、カワアイ、オキシジミ、ソトオリガイ、アナジャコ、エドガワミズゴマツボ、クロベンケイガニ
7	三番瀬干潟	27.4ha	前浜干潟	アサリ、シオフキ、マテガイ、バカガイ、アラムシロ、ヤマトカワゴカイ、チロリ、タマシキゴカイ
8	野島干潟	20ha	前浜干潟	アサリ、シオフキ、カガミガイ、アラムシロ、ニホンスナモグリ、チロリ、イボキサゴ、テナガツノヤドカリ
9	葛西海浜公園 (三枚瀬と人工干潟)	16ha	人工干潟	アサリ、シオフキ、マテガイ、トビハゼ、カワザンショウガイ、ソトオリガイ、ヤマトオサガニ
10	多摩川河口干潟	11.5ha	河口干潟	アシハラガニ、クロベンケイガニ、カワザンショウガイ、ヤマトオサガニ、チゴガニ、アナジャコ

※ 前浜干潟：海岸線に沿ってできる干潟 河口干潟：河川の河口部にできる干潟 ※ 環境省第5回自然環境保全基礎調査などをもとに作成



えどがわの干潟やそのまわりで観察された生きものたち

水中の生きもの

砂干潟の生きもの

泥干潟の生きもの

汽水の生きもの





「干潟」ってどんなところ？

「えどがわの干潟」は、自然とふれあえる
「大都会の楽園」なんだ。



川が海に流れ込む河口や湾^①など、水深が浅く、潮がひくと砂や泥の地面が現れる湿地を「干潟」といいます。

江戸川区の海には荒川と旧江戸川の上流から栄養豊かな土砂が運ばれ河口に積み重なります。潮がひいた時には16ha(東京ドーム3.5個分)もの広大な干潟が広がります。

国内の干潟は埋め立てなどにより、どんどん姿を消していましたが、江戸川区の海には自然を守るために造った東・西なぎさや、三枚洲などの天然の干潟が残されています。「東京湾の干潟・浅瀬」は魚介類や渡り鳥などがたくさん集まることから、環境省の「日本の重要湿地500」に選ばれた自然の楽園です。大都会東京で自然と触れあえるえどがわの干潟は人と生きものにとってとても大切な場所なのです。

※1 海が陸地側に入り込んだ部分

